

地域ごとの検討事項まとめ（北部ブロック）

参加者の意見を基に、地域（ブロック）ごとに各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

■学校再編

- ・今まで学校を中心として地域発展（人口増加）してきた経緯から、学校が無くなった場合のさらなる地域の人口減少を懸念している。
- ・生徒数の地域バランスに配慮した学区の見直しをする必要性がある。
- ・教育環境を向上させるため、複数学級とする統廃合もある。
- ・統廃合を検討する際には、北部と南部の地域特性にそれぞれ配慮が必要である。また、特色ある教育により人を呼び込むことも考えられる。
- ・北部ブロックは旧志賀町地域であるが、この地域に捉われず、大津市として最適な方法を考えることが重要である。
- ・統廃合を検討する際には、生徒の通学距離に配慮する必要がある。

■地域拠点

- ・市民センターを地域拠点として、市民が利用するサービスを複合化（集約）すると利便性が向上する。
- ・文化活動の場は、分散型より、集約型が使いやすい。
- ・例として、母親が市民センター内に子どもを預け（児童福祉サービス）、講座（社会教育サービス）や集会（市民交流サービス）等の交流機会に参加するというケースがあり、この場合、複数のサービスを市民センター内だけで完結できる。※現在の木戸市民センターでは実際に行っている。
- ・リサイクルセンターで行っている体験学習は市民が集まる場所に集めたほうがよい。

■交通

- ・自動車の利用が主な交通手段であるため、市民が集まる公共施設には、駐車場が必要である。
- ・また、運転できない人の交通手段も確保することも重要である。

■防災

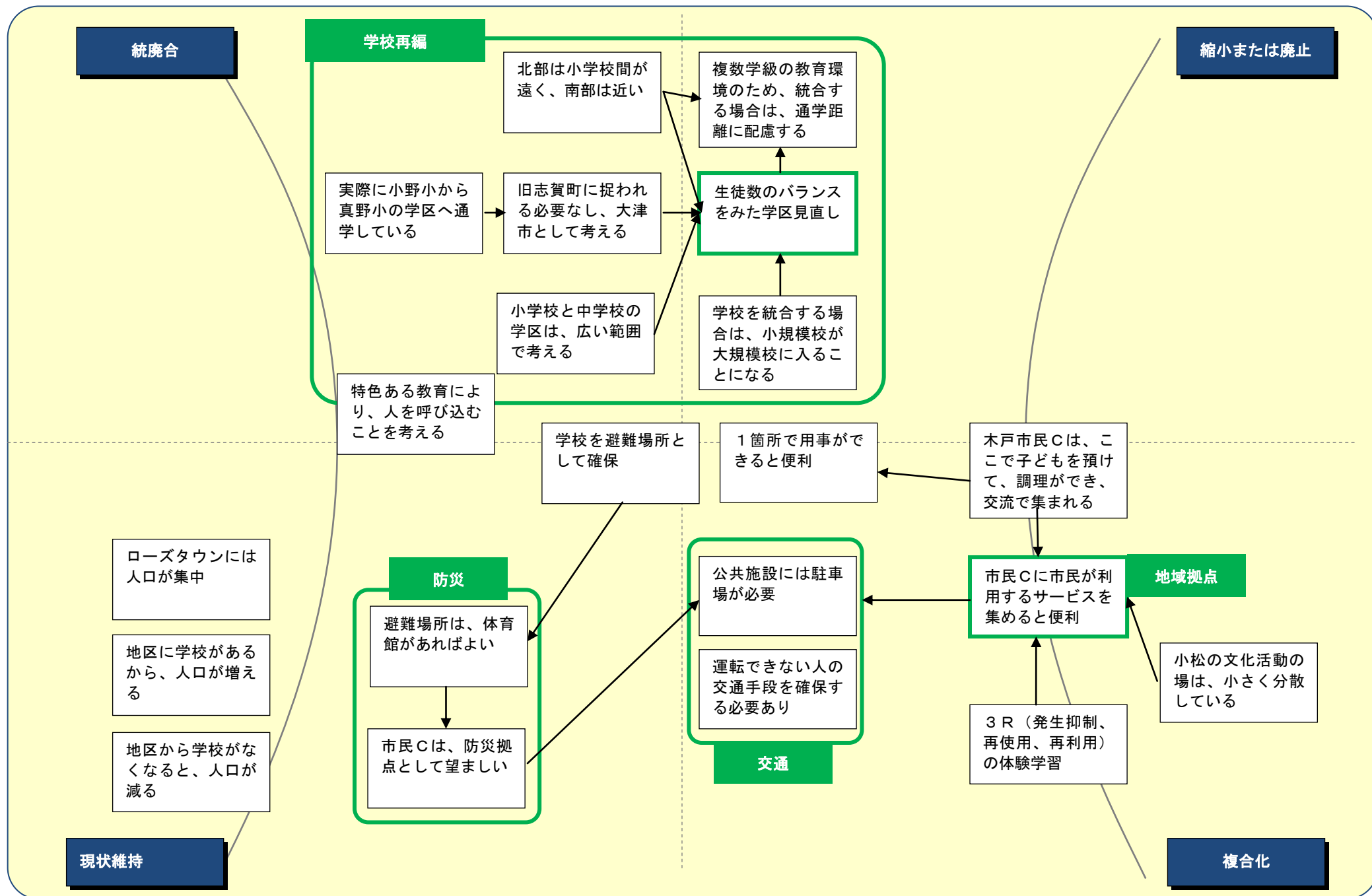
- ・学校を避難場所として維持する必要がある。
- ・体育館を避難所として使用するため、学校全体ではなく体育館のような大きな建物を残す。
- ・市民センターは、広さや機能面で防災拠点として安心できる公共施設である。

主な視点

- 拠点施設としての学校の存在と地域発展との関わりの視点
- 教育環境を踏まえ、生徒数のバランスを見据えた学校の検討
- 地域拠点としての市民センター等の活用と利便性の確保
- 公共施設の将来配置の見直しと防災拠点としてのニーズの付加

《地域毎の意見等の傾向分析シート》

北部ブロック（小松、木戸、和邇、小野）



※本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

地域ごとの検討事項まとめ（西北部ブロック）

参加者の意見を基に、地域（ブロック）ごとに各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

■学校（現状維持、多様な機能、学校再編）

- ・人口が少ないところほど、学校を残すべき。
- ・学校は、郷土愛を育むために必要で、地域で見守り協力も必要である。
- ・単学級の良さを大事にして、クラス替えがない部分は、学校間の交流で補うこともできる。
- ・どの学校を選択するか、学校や教育のあり方については、多様性が必要である。
- ・地域の教育の場として、学校の役割は重要である。
- ・多様性の中に地域の背景や歴史を考慮しつつ、地域の特徴や文化を活かして、魅力のある学校教育をつくるような配慮が必要である。
- ・様々な人との出会いにより、人間性が育成され、ステップアップできる。
- ・教育が一番大切であるため、最後に検討するべきもの。
- ・地域内での小中学校の統合はできるが、生徒数が多い場合はやりやすく、少ないとやりにくい。
- ・市街地等の学校はまとめる。
- ・統合する際には、遠方からの通学に対して、スクールバスなどの配慮が必要である。
- ・通学時の安全性を確保することが重要である。
- ・学校がなくなることと、教育がなくなること混同して考えないことが重要である。
- ・学校に不特定の人間が出入りするため、安全性の確保が問題となり、その責任の所在も課題である。

■有効活用、地域拠点

- ・公民館は予約でいっぱいなので、学校の空き教室を開放して欲しい（土日だけでなく平日も）。
- ・施設が統廃合されると機能がなくなるイメージがある。
- ・地域拠点として統廃合する場合、統廃合について施設と機能の定義の整理が必要
- ・建物をよりよく使うためには、民間活用もある。
- ・集約は、地域により統合できる、できないがある。

■その他（料金）

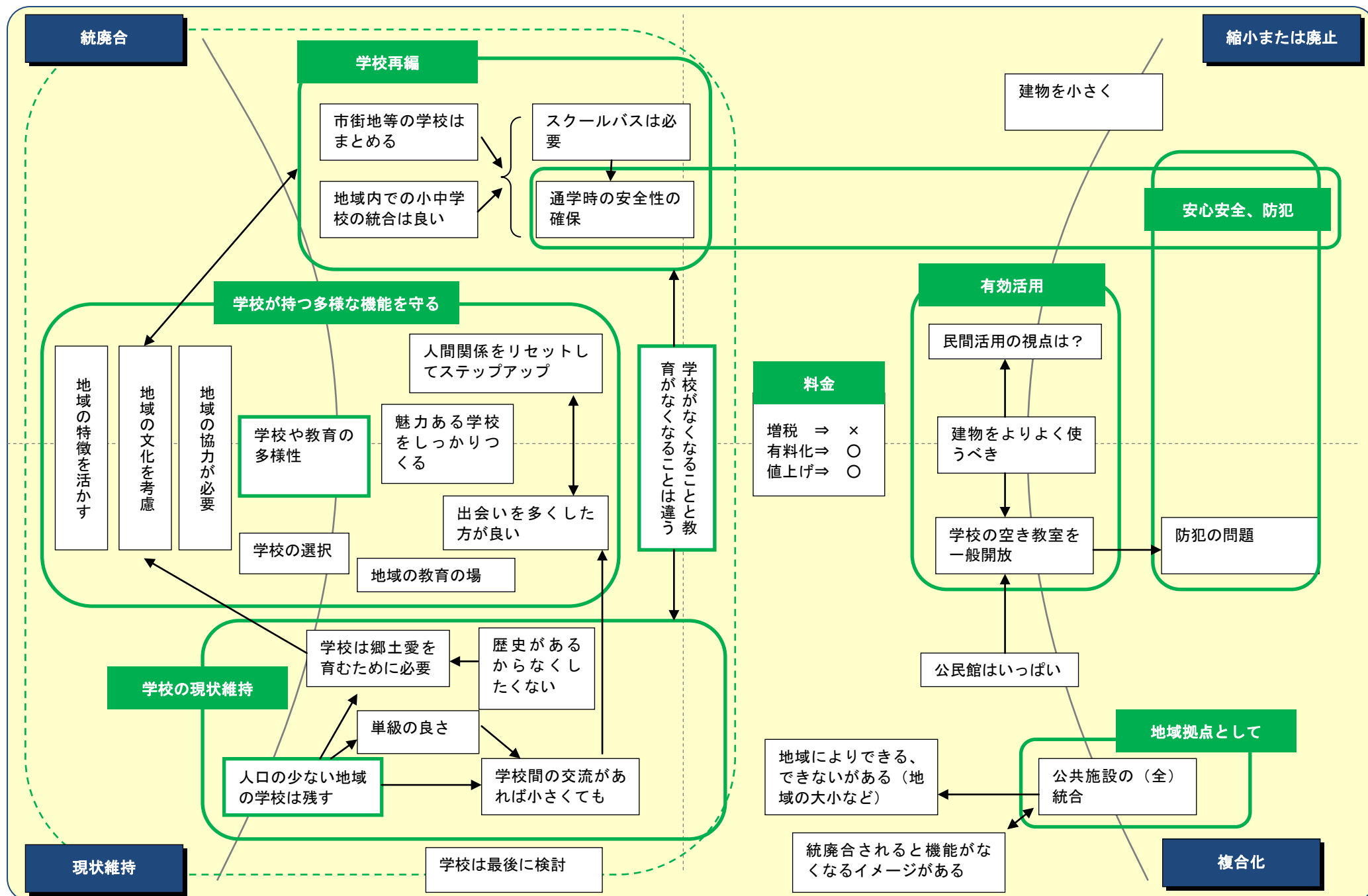
- ・サービスを維持するためには、有料化や値上げはやむを得ないが、増税は反対である。

主な視点

- 地域の文化や特徴に基づく教育の多様性の堅持
 - ・人口の少ない地域と多い地域毎の特性を踏まえた検討
 - ・地域の特徴を活かす検討
 - ・学校と4地域との関係性の議論
- 複合化における機能の定義と地域ごとの可能性
- 地域拠点としての考え方と建物の利活用
- 施設の集約と安全の確保の視点

《地域毎の意見等の傾向分析シート》

西北部ブロック（葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里）



※本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

地域ごとの検討事項まとめ（中北部ブロック）

参加者の意見を基に、地域（ブロック）ごとに各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

■学校

- ・学校が使いやすければ便利であり、保護者と地域で学校をつくることも考えられる。
- ・地域の愛着を高める公共施設がなかった。
- ・遠くなると、1時間かけて通学することや、バス通学の補助があるのかなどの問題があるため、学校は近くがよい。
- ・通学距離が遠く、国道横断もあり危険であるため、通学路の安全性に配慮する必要がある。
- ・小学校＋中学校＋幼稚園のように目的毎に機能をまとめる。
ただし、生徒数が多すぎることも留意し、学区の見直しも検討する。
- ・運動場を共用する場合は、園児と高学年の同時使用は、危険があるため配慮が必要である。
- ・学校の複合化は、車や不特定多数の者が出入りすることとなるので、セキュリティ面が心配である。
- ・教育施設の複合化（小＋中＋幼）であれば、セキュリティの管理が可能である。

■施設の配置

- ・エリア別に集まる場所を揃える。
- ・利用者や利用目的別に配置を変えることも重要であり、民間施設を活用し行政手続や保育・幼稚園、図書館を複合化する。
- ・地域には図書館やホールのような広域施設が無い場合、一つあると便利になる。
- ・市民センターは土日の利用が多く、飲食ができないことから、ソフト面を改善して、利用者が増えれば、減らすことはない。例えば、カフェをつくるなど「集まる」努力が必要である。
- ・平日は市が管理でき、土日は誰が管理するか課題であるが、儲けられる施設となれば解決できる。
また、ルール作りや支援制度も必要である。
- ・歩いて集まる小さな場所や、みんなで集まる大きな場所を配置する。
- ・小さな場所は、お年寄りや子育て中の人やバギー等を押して、容易に歩いて集まると便利である。
- ・大勢が集まる大きな場所は、坂道が多いことや夜間利用が多く、車を利用するので、駐車場を完備する必要がある。現在は駐車場がないため、近くの小学校に車を停めたりしている。
- ・平地は、電車が通っているが山に向かった交通手段が必要である。

■観光（機能、サービス）

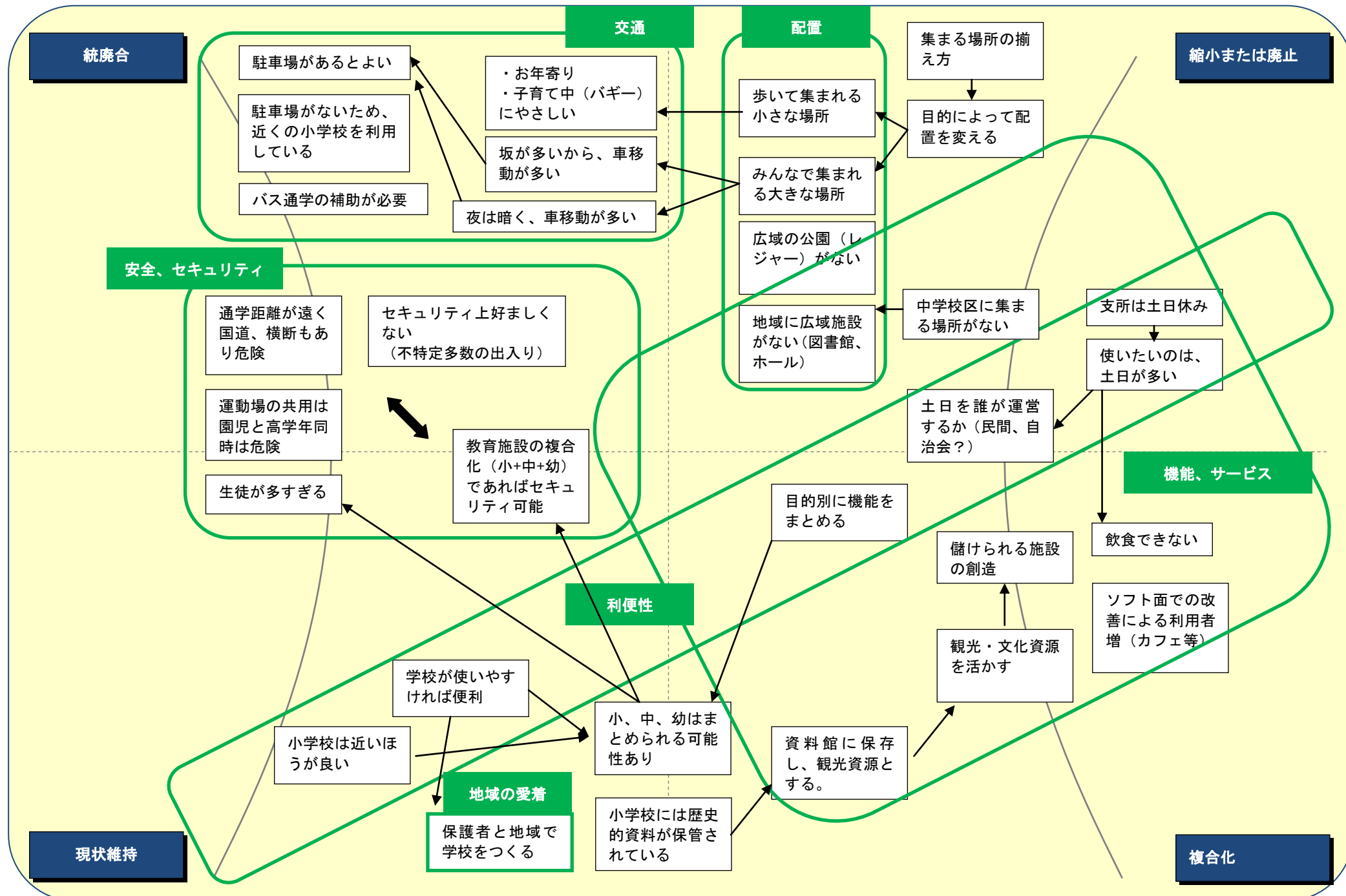
- ・教育と観光は関連しており、小学校にある歴史的資料を資料館へ移設すれば、観光資源となる。
- ・湖岸など観光のロケーションとしてはよいが、公園等のレジャー施設が無い。

主な視点

- 機能充実と使いやすさの追求
 - ・土日の活用（開館時間）／運営
 - ・ソフト面での機能充実
- みんなが集まれる広域複合拠点施設の配置要望
- 集約、複合化による交通、セキュリティの確保の視点

《地域毎の意見等の傾向分析シート》

中北部ブロック（雄琴、坂本、日吉台、下阪本、唐崎）



※本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

地域ごとの検討事項まとめ（中部ブロック）

参加者の意見を基に、地域（ブロック）ごとに各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

■教育環境（学区、距離）

- ・子どもたちのために、お金がかかっても、1学区1小学校制を守る。
- ・小学校は距離が大事で、家の近くがいい。
- ・中学校区は、小学校3校から2校に学区を見直す。
- ・単学級の場合、いじめなどの問題を抱えた場合、クラス替えもなく逃げ場がないため、学校の選択性も必要である。
- ・統合のデメリットとしては、学区が広くなりすぎることがあり、放課後友達と遊びにくくなる。

■施設配置（地域活動、コミュニティ）

- ・高齢者が多く移動できないため、コミュニティ施設は分散型で使いやすくする。
- ・集約されると、地域活動ができなくなる。
- ・集会所は学区に1つ必要である。
- ・小学校の空き教室を活用し、公民館を複合化する。
- ・防災上、市民センターと小学校が離れていると不便である。
- ・共稼ぎで通勤に駅を利用する人も多いため、駅周辺に集約すると便利である。
- ・複合化をする場合には、セキュリティを確保するため、出入口を別にする必要がある。

■幼稚園

- ・予算のことを考えると集約もありえる。
- ・通園が遠くなった場合には、幼児はバスで通えるかわからない。
- ・バス費用の補助はあるのか。お年寄り向けの補助はある。
- ・デイサービスの車を利用できないか。

■民間活用と料金・コスト

- ・民間が建てて、1階を支所、2階より上は民間が使用して収益を出す考えも必要である。土地も民間へ貸す。
- ・サービスレベルを見極めて、受益者負担は不公平感をなくするためには必要である。
- ・公民館の管理は市ではなく、地域に任せれば、飲食も可能となる。

■広域連携

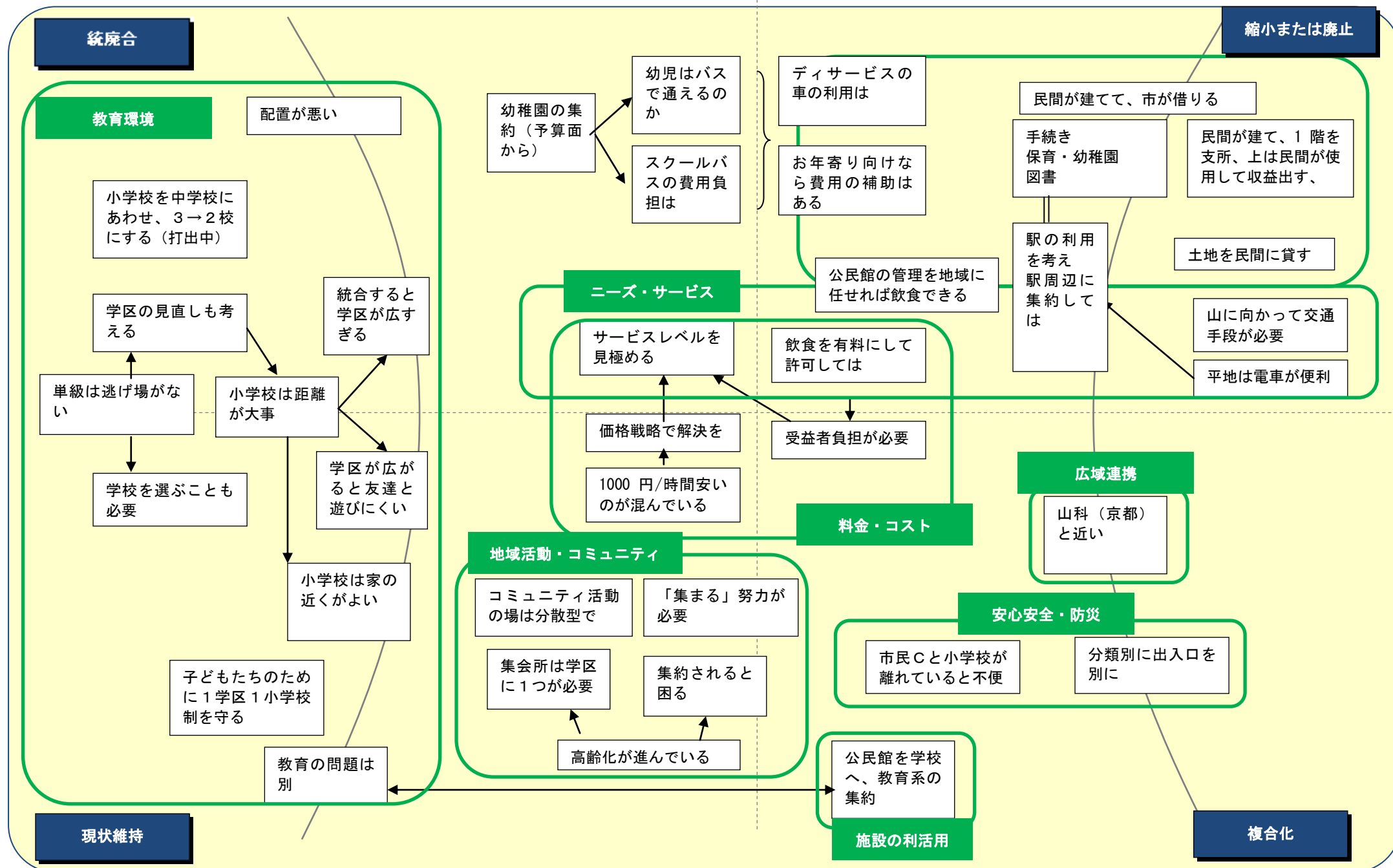
- ・藤尾は山科（京都）と近く、比叡平は他とは独立した文化圏である。

主な視点

- 
- 子どもたちのための教育環境を踏まえた、教育施設の検討
 - 社会状況に応じた地域活動、コミュニティ活動の活性化
 - ・集まれる拠点
 - ・ニーズ、サービスの向上
 - ・交通など利便性
 - ・民間活用によるニーズ、コスト、活性化
 - 安心安全、防災拠点の確保と施設の利活用
 - 生活圏、文化圏に応じた検討

《地域毎の意見等の傾向分析シート》

中部ブロック（滋賀、山中比叡平、藤尾、長等、逢坂、中央）



※本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

地域ごとの検討事項まとめ（中南部ブロック）

参加者の意見を基に、地域（ブロック）ごとに各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

■地域施設の利用状況

- ・市民センターでは、証明書発行や各種団体の情報取得、各種団体の事務局があるため会議や講座があり、少人数の会議室の利用は多いが、大人数の会議室は利用回数が少ない。
- ・市民センターは災害時の避難所として大切。
- ・現状の問題は、飲食ができないことである。
- ・市民センターへの主な交通手段は、徒歩と自転車以外に自動車を利用している。
- ・自治会館では、自治会は昼夜問わず、毎月 50 人が会議室を利用している。地域で持っている。
- ・自治会館への主な交通手段は、徒歩と自転車である。
- ・地域には広域施設や美化センターなど会議室がある公共施設はあるが、用途の目的が異なるため、一般開放されていない。これも利用できれば便利であるが、施設管理者が異なり縦割り行政の解消が必要である。
- ・少人数なら、生涯学習センターのロビーを使うこともある。
- ・近所の民家から苦情があるため、大きな音の活動はできない。
- ・ホール機能や二重サッシの部屋が必要。

■利用料金

- ・民間施設でも会議やサークル活動は可能であるが、利用料金の負担は必要である。
- ・その代わり、飲食も可能である。

■利便性

- ・作った時と現在で使い方が変化しているので、時代に応じた見直しがあれば対応できると考えられる。
- ・使いたい時に使えなかったり、予約期間や予約方法が同じ大津市の公共施設でも施設管理者や担当が異なれば違っており、使いにくく、改善が必要である。
- ・また、地域施設と広域施設など、用途の目的が異なるため、地域住民は使えないといった問題も解消し、もっと使いやすくする必要がある。

■教育環境の充実

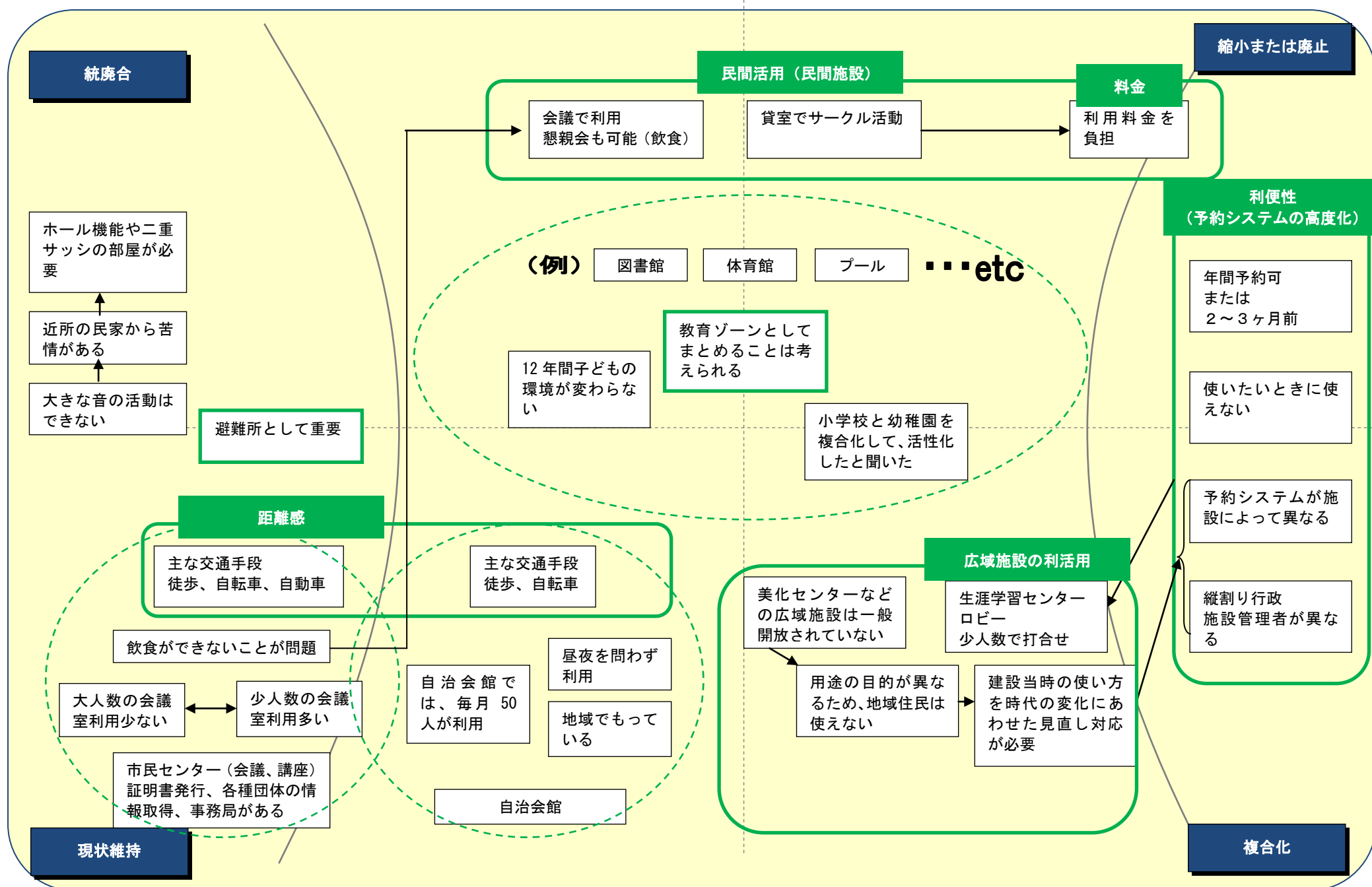
- ・教育ゾーンとしてまとめることは考えられる（図書館、プール、体育館）。
- ・小学校と中学校で人が入れ替わると環境が変わり、生徒にとってよい場合もある
- ・小学校と幼稚園を複合化して、活性化したと聞いた。

主な視点

- 
- 地域活動、コミュニティを踏まえた施設の現状から利用を検討
 - 地域内にある広域施設の利活用
 - 近隣民間施設の活用と利用料負担の視点
 - 予約をはじめとした利便性の向上
 - 教育環境の充実を踏まえた方策の検討

《地域毎の意見等の傾向分析シート》

中南部ブロック（平野、膳所、富士見、晴嵐）



※本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

地域ごとの検討事項まとめ（南部ブロック）

参加者の意見を基に、地域（ブロック）ごとに各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

■小学校の統合

- ・ 小学校は子どもと地域の人が交流する場所であり、地域コミュニティの核として現状維持とする。
- ・ 主な交流の機会には、小学校で行う地域運動会がある。
- ・ 少人数でも地域に学校を残すためには、他の地域から通ってもらうような発想も必要である。
- ・ 統合する際には、遠距離通学のためにスクールバスが必要となる。
- ・ 統合した場合、児童クラブと学校が遠くなることも考えられ、安全性が問題となる。
- ・ 児童クラブと小学校は近い方が、安全面でも望ましい。
- ・ 統廃合は、3～4人になってから初めて考えるべき。
- ・ 検討するにあたり生徒数は気にしない。
- ・ 学校を必ず残し、その分を他の施設でカバーするような将来サービスを捉えたガイドラインを示した上で検討が必要である。

■幼稚園の適正化

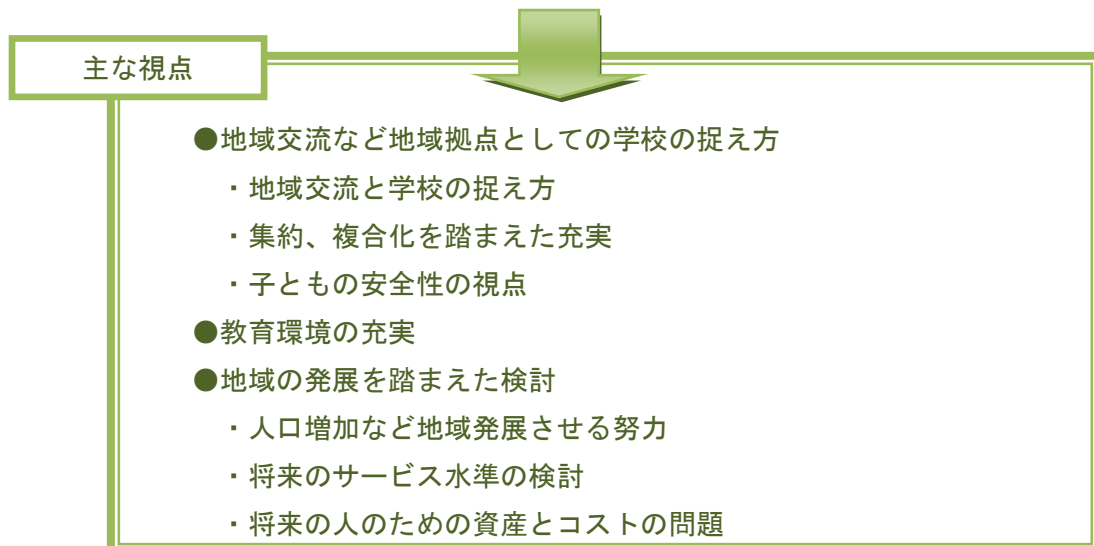
- ・ 園児数が少ない幼稚園2園を1園に統合したら、定員いっぱいになり教育環境が悪くなる。
- ・ 定員に対して余裕があったほうが望ましいが、今後、3年保育を考えると施設に余裕もない。
- ・ 少人数保育を実現するには、費用と料金のバランスも大事だが、支払額の増加は困る。
- ・ 幼稚園を小学校と複合化する場合、活動の目的や内容が異なるため、騒音等に配慮する必要がある。

■図書館

- ・ 支所の図書コーナーは本が充実しており、小学校の図書館より人気がある。小学生も放課後に多く利用している。
- ・ 小学校の図書室を大きく充実させ、地域の人にも使えるように開放すればよい（南郷小）。
- ・ 騒音等についてはマナーの問題で、大人が子どもにマナーの指導もできる。

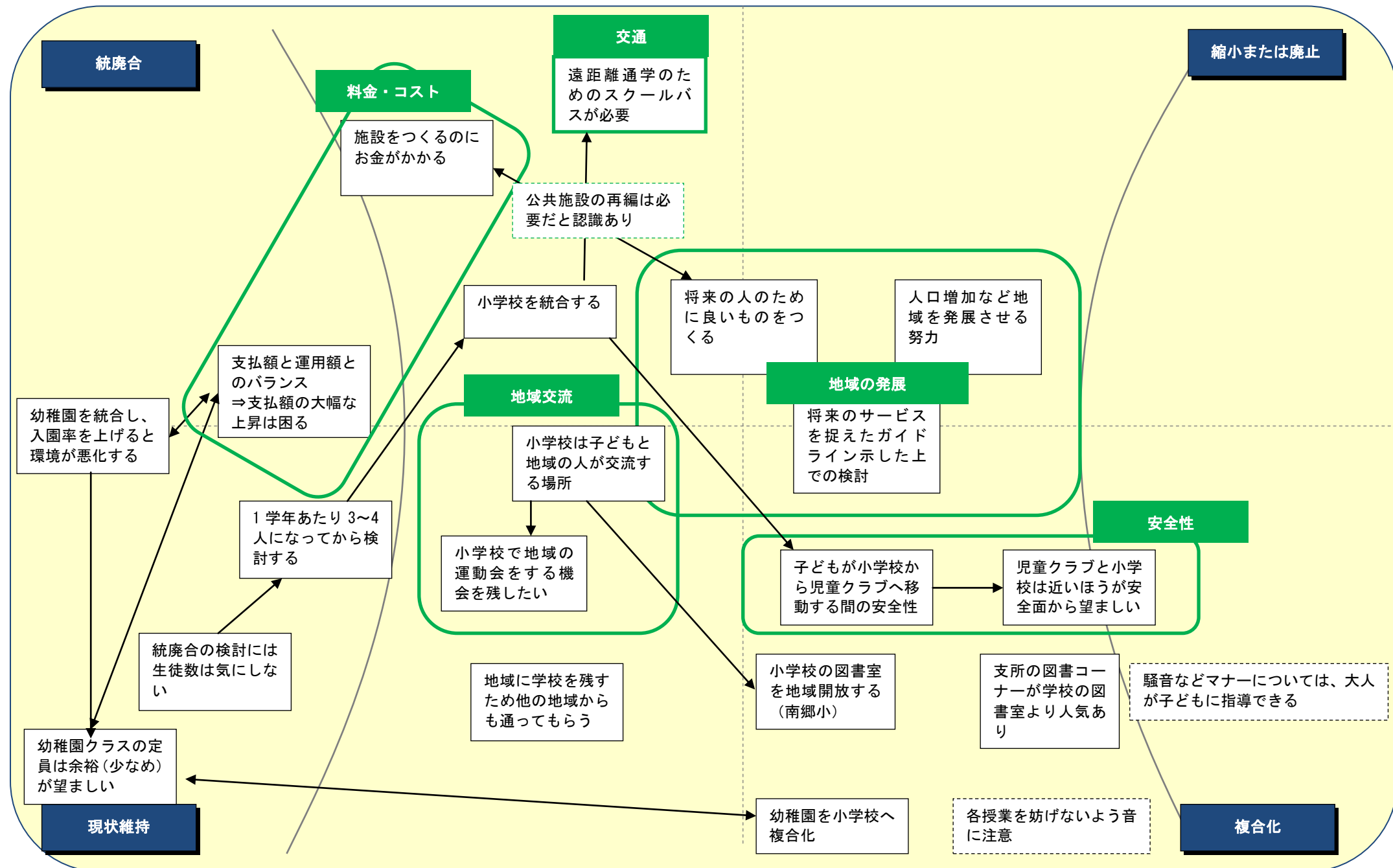
■地域の発展

- ・ 地域の発展（人口増加）には、他の地域から人を取り込めることが必要である。
- ・ 一つの施設を作るためにはお金がかかるため、将来の人のためにも良い物をつくる。



《地域毎の意見等の傾向分析シート》

南部ブロック（石山、南郷、大石、田上）



※本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。

地域ごとの検討事項まとめ（東部ブロック）

参加者の意見を基に、地域（ブロック）ごとに各施設の適正化の方向性（現状維持、統廃合、複合化、民間活用など）の観点から意見内容やその要素、視点を整理する。

■小学校

- ・ 上田上の小学校は残す。田上と上田上の故郷意識が違うため、統廃合しない。
- ・ 単級だが、いじめはなく、悪い子はいない。むしろきずなが深まる。
- ・ 現在も単学級だが問題はなく、人数が多いと問題になる場合もありえる。
- ・ 地域住民のふるさとである学校は残すべきである。
- ・ 地域に小学校と幼稚園がなくなると、地域の魅力がなくなる。
- ・ 人口増加にあわせた対応も必要で、住みよい町にするには、同じ学区は同じ学校へ通うことが必要である。
- ・ 小学校を残しながら、学校の存在を考えることが大事である。

■有効活用、複合化

- ・ 空き教室には優先的に、市民センターや幼稚園、子どもとお年寄りが一緒に生活できるような施設を受け入れた複合化が考えられる。
- ・ 統合する場合には、学校を優先的に考え大きな施設を作り、空きが出たときに他の用途の施設を受け入れられるように変化に対応できる施設として整備することが必要である。
- ・ 幼稚園は、地域の協力を下に特色ある幼稚園づくり（少人数、芝生グラウンド）を行っている。

■地域の発展

- ・ 住みよい町とするには、同じ学区は同じ学校へ通う。
- ・ 公共施設は地域の特色を活かす配慮が必要である。
- ・ 市民センターには公民館機能があり、人が集まるために広い駐車場が必要である。
- ・ 人口増加に合わせた施設が必要であるが、学校の通学区域が変わると地域コミュニティに悪影響が出て困る。
- ・ 減らす話ばかりではなく、地域を発展させる努力も必要である。
- ・ 車社会なので、道路をつくり、バスを通せば地域がよくなる。

■検討全般

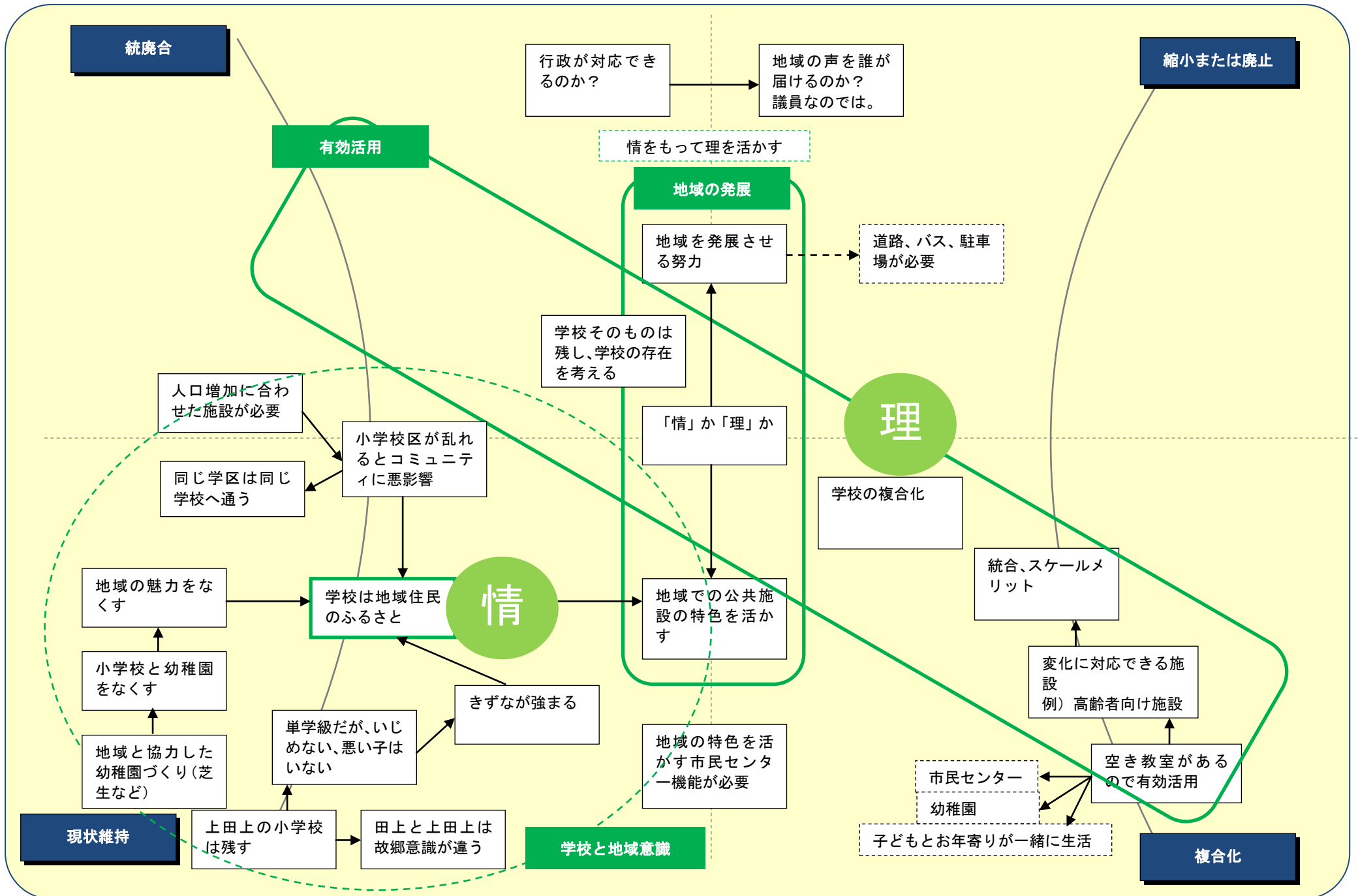
- ・ 公共施設を考える時、「情」か「理」のどちらかではなく、「情」をもって「理」を活かすことが必要である。
- ・ 本課題は行政で対応できる問題なのか。地域の声が届けるのは誰か。こういう話は議員がすべきではないか。

主な視点

- 地域における学校、幼稚園の存在
- 地域を発展させる視点
- 情をもって理を活かす
- 社会の変化に応じた対応
- 地域の特徴の違いを踏まえる、活かす

《地域毎の意見等の傾向分析シート》

東部ブロック（上田上、青山、瀬田、瀬田南、瀬田東、瀬田北）



※本資料は、第4回公共施設の地域別あり方検討会で、ブロック別の討論において出た意見の要素を分析した資料です。